

沖繩担当大使通信
第6回 沖繩を学ぶ、沖繩に学ぶ

2026年（令和8年）5月29日



アフリコンバース（2026年5月15日、於：JICA 沖繩）

ゴールデンウィーク明けの5月には、沖繩で様々な行事や会合が開催されました。今月で私が沖繩に着任してから早くも半年になりますが、日々新たな場で新たな出会いに恵まれています。

5月上旬にはグラス駐日米国大使が来訪し、米国建国 250 周年記念レセプションが万国津梁館で盛大に開催されました。中旬にはアフリカ開発関連対話型セミナー（アフリコンバース）が JICA 沖繩で開催されました。下旬には日本語補習教育事業閉講式や、県内の自治体・団体が主催する文化行事・懇親会に出席し、沖繩コミュニティ・パートナーシップ・フォーラムも開催されました。

今月の一連の行事に出席して、沖繩について学ぶのみならず、沖繩から学んだことを他国や地域・世界にも生かして、ともに発展していくことが大切であると感じました。今回の沖繩担当大使通信では、沖繩の経験や文化から学び、それを生かしていくために何ができるのか、一緒に考えていきたいと思えます。



アフリコンバース（2026年5月15日、於：JICA 沖縄）

●アフリコンバース

5月15日、JICA 沖縄で[アフリコンバース 2026 第2回](#)「距離のない世界をデザインする：沖縄からアフリカへ、『誰一人取り残さない』を実現するために」が開催されました。アフリコンバースとは、国連開発計画（UNDP）と JICA が共催するアフリカ開発関連の対話型セミナーです。[今回は初めて沖縄を舞台に](#)、医療分野におけるイノベーションと医療アクセスの実現に向けた具体的な連携を探ることを目的に開催され、会場とオンラインで 200 名以上が参加しました。

訪沖したエザコンワ UNDP アフリカ局長の基調講演に続き、OIST と琉球大学のアフリカ人研究者、アフリカでデジタル産前健診事業を展開する宜野座村在住の起業家、沖縄の離島医療の経験をスーダンの医療制度構築と人材育成に生かした JICA 国際協力専門員がパネリストとして登壇しました。最新の科学技術・イノベーションを活用するためには、実際の保健医療を担う人材の育成や制度の改善、そして政府との連携が重要です。戦後の厳しい時代に困難を乗り越えた沖縄の経験は、アフリカ開発にも大いに活用されていると感じました。

私からは、茂木外務大臣が今月の対アフリカ外交政策スピーチで新たに打ち出した平和・成長・共創の3本柱を説明するとともに、沖縄の様々な強みを生かして、日本とアフリカが共創し発展することへの期待を述べました。



米国建国 250 周年記念レセプション（2026 年 5 月 8 日、於：万国津梁館）

●米国建国 250 周年記念レセプション

今年は米国建国 250 周年で、年間を通じて日本各地で祝賀イベントが開催されています。5 月 8 日、名護市の万国津梁館で、[米国建国 250 周年祝賀レセプション](#)が開催されました。

[ジョージ・グラス駐日米国大使が沖縄に来訪](#)して主催者として挨拶し、玉城デニー沖縄県知事が来賓として祝辞を述べました。私も他の来賓とともに乾杯やケーキカットに参加して、日米同盟及び沖縄と米国との友好の絆を祝いました。沖縄県、市町村、経済界、米軍関係者など多くの日米関係者が参加して、米国建国 250 周年を祝い、日米友好関係の更なる発展を祈念しました。

グラス大使の挨拶や玉城知事の祝辞では、米国と沖縄の安全保障、科学技術、教育、経済、観光、文化、姉妹都市交流など様々な結びつきが取り上げられました。また、米国建国 250 周年記念のかりゆしウェアとオリオンビール缶の発表、DA PUMP の U.S.A.のパフォーマンス、海上花火などの演出で、沖縄と米国の友好と交流の素晴らしさを感じました。



第2回沖縄コミュニティ・パートナーシップ・フォーラム
(2026年5月28日、於：キャンプ瑞慶覧)

●第2回沖縄コミュニティ・パートナーシップ・フォーラム

5月28日には、沖縄県と在沖米軍の共催により、第2回沖縄コミュニティ・パートナーシップ・フォーラムがキャンプ瑞慶覧で開催されました。このフォーラムは、沖縄県、在沖米軍、外務省沖縄事務所、在沖米国総領事館、沖縄県警察本部、防衛省沖縄防衛局の代表者が集まり、地域の安全とパートナーシップの強化に向けて話し合いを進めるため、昨年5月に立ち上げられたものです。

昨年のフォーラムでは、日米双方が取り組む犯罪防止策が共有されるとともに、様々な課題が議論され、在沖米軍と沖縄の地元関係者の継続的な意思疎通と協力の重要性が強調されました。今回のフォーラムでは、その後の進捗として、沖縄に新たに着任するすべての米軍関係者に義務付けられたブリーフィング「沖縄オリエンテーション概要」の更新が完了したことなどが確認されました。

また、新たに米軍関係者の配偶者に対する支援策や、ペットを飼育する際の事故防止策、米軍人による地域でのボランティア活動についても協議されました。今後もこのフォーラムを継続し、一層深化させていきたいと考えています。



日本語補習教育事業の閉講式
(2026年5月21日、於：嘉手納飛行場内ベクトル小学校)

●日本語補習教育事業

5月20日と21日には、嘉手納飛行場内のカデナ小学校とベクトル小学校で、外務省が米国防省教育部（DoWEA）と協力して実施している[日本語補習教育事業の閉講式](#)が行われました。

このプログラムは、アメリカの子どもたちが、日本語を週2回、放課後に約1時間、約6か月間にわたり学ぶクラスを開催するもので、沖縄では2023年から毎年実施しています。今年度は、両校あわせて約45名の子どもたちが参加して、日本語を学ぶとともに、[沖縄の子どもたちとも交流](#)しました。

私は21日のベクトル小学校の閉講式に出席して挨拶を行いました。閉講式では、学校関係者や保護者を前に、子どもたちがこれまでの学習の成果として日本語で堂々と発表し、エイサーのパフォーマンスも披露して、会場は笑顔と拍手に包まれました。私からは、学んだ日本語をどんどん使い、家族とともに沖縄の人たちと交流して幸せになってほしいと伝えました。



那覇市市制 105 周年記念行事
(2026 年 5 月 20 日、於：那覇文化芸術劇場なは一と)

●沖縄での各種行事への出席

毎年 4 月から 6 月にかけて、沖縄の様々な団体が年次総会を開催しています。総会後の懇親会にお招きいただいた際には、役員や会員の皆様にご挨拶するとともに、最新の活動内容を伺うことができ、大変貴重な機会となりました。

5 月 20 日には、[那覇市制施行 105 周年記念式典](#)が那覇文化芸術劇場なは一とで開催され、私も出席させていただきました。その第一部で上演された「[ウナイ神のくれたもの—鎌倉芳太郎物語—](#)」には胸を打たれました。1898 年に香川県で生まれた鎌倉芳太郎が、東京美術学校図画師範科を卒業して沖縄県の女子師範学校に美術教師として赴任したことがきっかけで、琉球王国時代からの美術工芸に魅せられて調査研究し、首里城復興にも大きく貢献した業績を紹介する内容です。沖縄の人たちが、琉球時代からの歴史と伝統を大切に受け継ぎながら生活していることの意味を改めて感じるとともに、同じく沖縄の外から来た自分は何ができるのかを考えさせられました。



辺野古ハーリー大会（2026年5月24日、於：辺野古松田又浜）

●沖繩を学ぶ、沖繩に学ぶ

5月24日、名護市辺野古の松田又浜で、五穀豊穡と海上安全を祈願する伝統行事「アブシバレー」の一環として、ハーレー大会が開催されました。渡具知武豊名護市長をはじめ多数の来賓が出席する中、徳田真一辺野古区長が開会挨拶を行い、選手宣誓と競技開始宣言で大会が始まりました。辺野古区各班をはじめ、地元で活動する企業や団体、沖縄防衛局、在沖米軍、スポーツクラブなど38チームが参加する盛況で、地域の伝統文化を継承しながら相互の親睦を深める素晴らしい機会となりました。私も初めてハーレーに参加させていただきました。

当地での仕事の中で、沖縄について日々学んでいます。それと同時に、多くの人たちが沖縄の持つ様々な魅力に惹かれ、沖縄の強みを日本や世界で生かしていることに気づきました。私も、外務省での経験やネットワークを通じて、沖縄で学んだことを世界の平和や繁栄に少しでも生かしていきたいと思えます。

沖縄担当大使
紀谷昌彦